

GENSHOKU グループがVR領域へ

VRのMEDIASと業務提携

印刷メディア、WEBメディア、ドローン事業等を展開している㈱原色美術印刷社（西区商工センター17-5-48、田尾直也社長）及び㈱GENSHOKU（住所、社長同）は8日、技術革新が著しいVR（仮想現実）領域への参入を目的としてVRコンテンツ開発会社である㈱MEDIAS（西区草津新町1-21-35、室崎寿社長）と業務提携した。



IT技術者出身のトップであるMEDIASの室崎社長に上写真左は、IT技術が日本よりも格段に進んでいる海外のWEBサイトにあったVRに関する研究論文を基に、2012年他社に先駆けて自社開発のVRコンテンツ「めでいパノPRO」に同左シリーズを発表。



超高画質カメラで取り込んだ画像から切れ目のな

い360度パノラマ画像を作成し、色彩加工等独自の画像処理技術を加え、ブラウザ上にあたかも肉眼で見たかのような三次元空間を再現した。めでいパノPROは、Hibisの最優秀ビジネス事例として表彰された他、多数の受賞歴を有し、パノチャルでの観光施設や工場・不動産見学等で実績をあげている。

一方、GENSHOKUグループは、「集客・販促のプロ集団」として、顧客自身も気づいていない潜在的な無意識下の隠れた心理や欲求に訴求し、顧客が求めていた以上の価値や満足を創りだしていく企画力及び営業力を追求してきた。

この業務提携により、地域顧客への企画力&営業力を持つGENSHOKUグループと、VRコ

ンテンツの製作会社として業界をリードしてきたメディアスの技術力や表現力が融合することで、バーチャルとリアルの組み合わせを提案し今までに無い、より良い顧客体験を提供していく計画だ。

原色美術印刷社の田尾社長に上写真右は「コロナ禍やSDGsによってデジタル化が加速している中、紙は削減の対象。素晴らしい開発力・技術力を持つメディアス社との連携によりバーチャル空間という新しい領域への選択肢も提案していきたい」と話した。

メディアスの室崎社長は「弱点であった企画力と営業力を得て、より高いレベルで顧客のウォンツに対応できるようにひたすら技術力と表現力を磨いていきたい」と意欲をみせた。